

# ヴァン・ヘルシング (VAN HELSING)

2004(平成16)年9月12日鑑賞(三番街シネマ)

★★



監督・脚本・製作＝スティーヴン・ソマーズ／出演＝ヒュー・ジャックマン／ケイト・ベッキンセール／ウィル・ケンブ／リチャード・ロクスバーグ／デヴィッド・ウェンハム／ケヴィン・J・オコーナー／シュラー・ヘンズリー (ギャガ・コミュニケーションズ、ギャガ・ヒューマックス共同配給／2004年アメリカ映画／133分)

……<sup>ドラキュラ</sup>西欧型の古典的モンスターの代表である吸血鬼と<sup>ウルフマン</sup>フランケンシュタインそして狼男が登場し、<sup>ドラキュラ</sup>ドラキュラの不倶戴天の敵であるヴァン・ヘルシングがこれらとわたり合う。CGをふんだんに使用した、何ともバカバカしい(?) 冒険ファンタジー映画。世界同時公開で大人気とのことだが、日本語版といっても、日本の子供たちにこの西欧型の「おとぎ話」がホントにわかるのかな……？

## ドラキュラ伯爵とヴァン・ヘルシング

<sup>ドラキュラ</sup>吸血鬼は、多分ヨーロッパでもっとも有名なモンスター。これについてはパンフレットにある「ヴァン・ヘルシング正伝」が詳しい。1931年のユニバーサル映画『魔人ドラキュラ』、1958年のハマー・プロ作品『吸血鬼ドラキュラ』、1979年のジョン・バダム監督の『ドラキュラ』、さらに1992年のフランシス・フォード・コッポラ監督の『ドラキュラ』など、ドラキュラ映画は数多い。そしてそのドラキュラの天敵がヴァン・ヘルシングという人物(?) ということだが、多くの日本人はそんな知識は持っていないはず……？

もっとも1897年に発表された、ブラム・ストーカーの小説『吸血鬼ドラキュラ』にはじめて登場したヴァン・ヘルシングという人物は、ファーストネームをエイブラハムといい、アムステルダム大学の名誉教授だが、その学問的研究の過程の中でドラキュラを追いつめ、ロンドンからこれを追い出すことに成功したとのことだ。この小説『吸血鬼ドラキュラ』におけるヴァン・ヘルシングの人物像

とは全く異なるヴァン・ヘルシング像を創造した上、ビックリするような荒唐無稽(?)な冒険ファンタジーアクションをつくり上げたのが、この映画……?

### 3人の古典的モンスターたち

この映画の主人公は、ドラキュラ伯爵(リチャード・ロクスバーグ)とヴァン・ヘルシング(ヒュー・ジャックマン)の2人だが、同時にフランケンシュタイン(シュラー・ヘンズリー)と狼男<sup>ウルフマン</sup>という古典的なモンスターも登場する。さらに、ドラキュラ伯爵の3人の美しい(?)妻たち、すなわち、アリーラ(エレナ・アナヤ)、ヴェローナ(シルヴィア・コロカ)、マリーシュカ(ジョージ・マラン)も登場する。そしてこの映画のヒロインは、400年以上にわたってドラキュラと闘っているアナ王女(ケイト・ベッキンセール)。タイト姿で長い剣を構えた凛々しい姿は宝塚歌劇風で、たしかにカッコいい美女だが、現実には空を自由に舞うドラキュラの3人の妻たちの「実力」にはとてもかなわず、逃げているばかりというイメージ。したがって、それほど華々しい活躍(?)がないのは少し残念……?

### 子供連れが多かったが……

私は上映時間の都合上、久しぶりにこの映画を「日本語吹き替え版」で観たが、私は基本的に俳優の生の声が聞けない吹き替え版は嫌い。もっとも日本語吹き替え版だけに、子供を連れた家族連れが目立っていたのは当然だが……。しかしヨーロッパ型のモンスターの代表格であるドラキュラやフランケンシュタインそして狼男は、日本人にはもともと馴染みが薄いもの。例えば十字架を示したり、聖水をかけたりすることによって、ドラキュラを追い払うことができるのはよく知られているが、それはキリスト教の背景があつてのことだから、その深い意味は日本人にはわかりづらいもの。さらにフランケンシュタインや狼男は大人でも日本人には馴染みの薄いキャラクターだから、子供にホントにわかるのかな……?

### 修道僧は面白いキャラ

ヴァン・ヘルシングをドラキュラ退治に派遣したのは、ローマ法王庁。それに

は深い深いワケがあるのだが、それは映画を観てのお楽しみ……。その法王庁で武器開発を担当する、ヴァン・ヘルシングの相棒のカールのキャラクターが面白い。

カールを演ずるデヴィッド・ウェンハムは『ロード・オブ・ザ・リング—二つの塔—』(02年)、『ロード・オブ・ザ・リング—王の帰還—』(03年)のファラミア役で有名になったが、この映画では、何でもこい(?)のスーパーマン、ヴァン・ヘルシングのひ弱な相棒ながら、「知恵で勝負」という面白い役で登場している。

『007シリーズ』でもジェームズ・ボンドが使用する、観客をあっと言わせる新型の武器が毎回話題となったが、この映画でヴァン・ヘルシングが使用する数々の武器は、すべてこのカールが発明したもの。そんなテーマも、この映画の楽しみ方の1つかも……?

## CG技術の発展はホントにいいこと……?

昔のドラキュラ映画では、急に口から牙を出したり、空中を飛び回ったりするシーンを撮るのは大変だったはず。また満月の夜に、人間が狼男に変身するシーンの撮影も難しかったはず。さらに7人分の死体を寄せ集めて作ったフランケンシュタインの実像をどう描くのかも難しかったはず。しかし……。今はCGという便利なものがあるため、監督や撮影者の感覚や感性によって、それらはどうにでも作ることができる。その結果、この映画では……?

まあ観てのお楽しみだが……?

2004(平成16)年9月13日記